

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書（参加学生）

平成 25 年 03 月 29 日

所属：教育文化学部国際言語文化課程 4年

氏名：菅原 南

研修先大学・機関名等（国）：カーロイ・ガシュパル大学（ハンガリー） / カレル大学（チェコ）

在籍身分：短期研修生

渡航年月日：2013年02月28日

帰国年月日：2013年03月14日

○研修先での学習内容等

本研修では、ハンガリーのブダペストに1週間、そしてチェコのハンガリーに1週間滞在した。ブダペストでは Karoly Gaspar University を訪問し、日本語専攻の学部生、院生に東北のお祭り・文化を知ってもらおうとプレゼンを行った。同時に、学生の方々もハンガリーに関する様々なプレゼンを日本語で発表してくれた。日本語の授業に参加し、学生とのディスカッションを楽しんだ。また、英語の授業を体験することができ、日本の大学の講義との違いを肌で感じる事ができた。大学だけではなく、JETRO や Japan Foundation を訪問し、海外で働く日本の方々に貴重なお話を伺うこともできた。

プラハでは Charles University で学生と交流し、授業や休日の市内観光を通してチェコの文化や歴史を学ぶことができた。



英語の授業の様子



東北の文化についてのプレゼン

○研修期間の生活面について

研修期間中はホテルに滞在した。ハンガリー語もチェコ語も全くわからない状態で研修に向かったが、ホテルでも街中でも英語が通じるので言語で不便を感じることはなかった。両国ともユーロでないため、現地の通貨と日本円とを換算してお金を使う必要がある。ハンガリーは特に日本に比べて物価が安かった。

ブダペストでもプラハでも、授業が終わった後や休日は、現地の学生が街を案内してくれた。国の歴史や文化についてとても詳しく説明してくれた。有名な観光スポットから、現地の人々が知るレストラン等まで、ガイドブックではわからないような現地の学生ならではの町案内だった。学生は一生懸命日本語を使おうとし、私たちもそれに応えて簡単な日本語を使ったり、ゆっくり話したりとうまくコミュニケーションが図れるように工夫しながら交流できた。

○研修期間全般にわたる感想

今回私はハンガリー、チェコを日本と比較しながら研修にあたった。語学、特に英語を専門としてきた私にとって、ヨーロッパの学生の語学力の高さとその教育制度の違いを目の当たりにし、改めて日本の英語教育、そして自分自身の語学力を見つめ直すことができた。また、日本語を専攻している学生たちは、日本語が上手に話せるだけでなく、日本の文化や歴史に対する知識や興味がたいへん大きく、日本人である私のほうが知識が少なく愕然とする場面もあった。学生と関わっていくうちに、これから教育者として働く自分にとっていかに生徒のモチベーションや自主的な学習が必要かということを実感した。

さらに、ヨーロッパの中の小さな国、近隣の国同士といえども、その経済状況や政治・歴史的背景、文化や習慣をはじめ、民族性から多岐にわたってそれぞれ独自のものがあつた。人々や街の雰囲気も、建物の特徴も一歩国をまたげば別の世界が広がり、人々はそれを大切にしてきたのだということが伝わった。新しいものを次々と生み出す日本を離れ、古き良きものをつまでも守り続けるヨーロッパの地で再度日本、そして自分自身について考え直すことができた。大変恵まれた環境の中で、ほぼ何不自由なく勉学に励むことができる日本という国で、私たちが本当に学ぶべきことは何なのだろうか。今回の研修で、他国と日本、海外で頑張っている学生と自分自身を客観的に見ることができた。それらをこれから始まる新しいステージでの糧、そして教訓にして、英語教育、学校教育を自分なりに変えていけたらと思う。

2週間という大変長い期間に渡っての研修を企画し、このような大変貴重な機会を与えて下さった国際交流センターの皆様はじめ大学の各関係者様に感謝の気持ちを申し上げます。本当にありがとうございました。

○今後の勉学計画

今後は秋田大学で培った知識と経験をもとに、子どもたちの国際理解、コミュニケーション力を養っていきたいと思う。